

自分の思いや考えを伝えるための表現力の育成をめざした国語科教育

～ 目的や意図に応じて資料の活用を取り入れて～

たつの市立小宅小学校
教諭 柿本 亜津子

1 取組の内容・方法

(1) はじめに

本校は、「気づく・伝える・深め合う」を研修テーマとし、校内研究に取り組んでいる。中でも、すべての教科学習において基本となる国語科を学習するうえで、実生活で生かしていける言語活動（話す・聞く・書く・読む能力）をつけることが大切である。そして、本校児童は、自分の意見を全体に広げたり、思いを伝えたりすることに抵抗を感じていることが多い。そこで本年度は、「表現力を育成すること」を中心に様々な実践に取り組んできた。「表現力」といっても、国語科においては、作文などを書く、発表や交流を通しての話す、図を使ったり新聞を書いてまとめたりするなど様々な方法がある。その場に応じた表現の仕方を工夫しながら、自分の考えを広げたり伝えたりする様々な表現力の育成を取り入れた実践を行った。

(2) 「活用・表現力」に着目した授業研究

今、小学校においては、目的や意図に応じ、必要な情報をもとに自分の考えをまとめることが課題であると言われている。そのために、目的や意図に応じて複数の資料を用いて、自分の考えを表現する力をつけていかなければいけない。書く活動においては、ただ感想を書くというだけではなく、キーワードを指定したり、文字数を指定したりして何らかの条件を用いて書かせることが大切である。読む活動においても、ただ読ませるのではなく、観点をしっかりと決めて読ませることが大切である。そして、最終的には、自分の考えをもつ、また筆者の考えと比べられるとさらによくなる。

また、教科書を読むだけではなく、教科書以外にどのような資料を取り入れていくのかということも重要になってくる。様々な資料を取り入れ、それを時と場合に応じて活用できるような児童を育てていく。そのためには、どのような場合でも、語彙力をつけていくことが大切である。そのために、子ども達に言葉のシャワーをあびさせ、身近なところから語彙を増やしていくことも必要だと考えられている。

(3) 自ら学ぶ意欲を高める授業作り

音読力を高めるためには、毎日の音読練習を通して、文章の中での語のまとまりや言葉の響きに意識しながら音読する。また、物語の内容を読み取っていくには、大切な言葉を落とさずに読み、登場人物の会話文や様子が書かれている文章から様子や気持ちを読み取ることが大切である。さらにその言葉の裏に隠された気持ちまで読み取っていく必要がある。そのために気持ちが書かれている部分に線を引かせ、その部分に着目させながら音読練習をするよう取り組んでいる。

書く活動においては、毎日の日記を書くことで、子どもたちは書くことへの抵抗が

少しずつなくなり、自分の思いや考えを文章に表すことができるようになる。毎時間学習の終わりには、ふりかえりとして書く活動を取り入れるようにし、本時の学習の内容を自分の言葉でまとめる活動をした。また、物語文では、吹き出しを使って登場人物の心情の移り変わりを読み取って書いたり、日記形式にして登場人物の立場に立って日記を書いたりして、物語を読み深めていくようにした。

また、物語の挿絵を見ながら場面の様子や登場人物の気持ちを想像することは、何もない状態で物語の世界をイメージするよりも子供たちにとっては、世界が広がる。そこで、学習の導入や振り返りをするとき、物語の世界を想像しやすくするための一つの手がかりとして挿絵を活用した。また、中心発問と挿絵を結びつけながら想像を広げさせるために効果的に活用していった。

2 取組の成果

(1) 文を書く(語彙を増やす取り組み)

意味調べ 文作り

国語科では、言葉を多く知ること、そしてその言葉を正しく活用できる事が大切である。授業開始の数分を利用して、これからの学習で出てくる言葉を1時間に1個意味調べさせる。そして、8個調べたあとで、調べた言葉を使って話づくりをしている。教科書の言葉の宝箱も参考にして語彙を増やしている。言葉うまく文章に取り入れられない児童も多いので、例文も参考に書くようにしている。

詩を作る

季節ごと(春夏秋冬・新年、修学旅行、卒業)に短歌や俳句を作る。またその詩のイメージも書かせている。書けたらクラスで読み合っ、自分のお気に入りの一句を選ばせ、その句について自分なりの考えを書くようにしている。

初めは、自分のお気に入りの句を選ぶことすらできなかった児童が、何度か学習を繰り返すことによって、自分の考えがスムーズに書けるようになってきた。また、友だちの作品を読み合うことで、様々な表現の工夫を見つけたり真似したりする児童も出てき、表現が豊かになった気がする。

新聞活用(コラム・ワークシート)

季節の話題や教科書の内容に沿ったものがあれば、新聞記事を活用して文章や資料から読みとり、自分の考えを書く。そして、通信で知らせて読むことで、自分の考えと友だちの考えを比べたり、様々な考えを共有したりする。また、週に一度ワークシートを活用して、学習に取り組んでいる。新聞を読む習慣のない児童もいるので活字に触れるいい機会であると思う。また、時事問題など楽しみにしている児童も見られる。初めは、読むスピードが遅かった児童も回数を重ねる度に読むスピードも速くなってきた。



<つまずきポイント指導事例集(中学版):ことのはプリント参照>



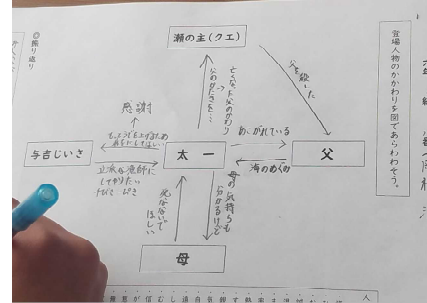
<コラム>

<俳句>

(2) まとめる(6年:「海の命」光村図書)

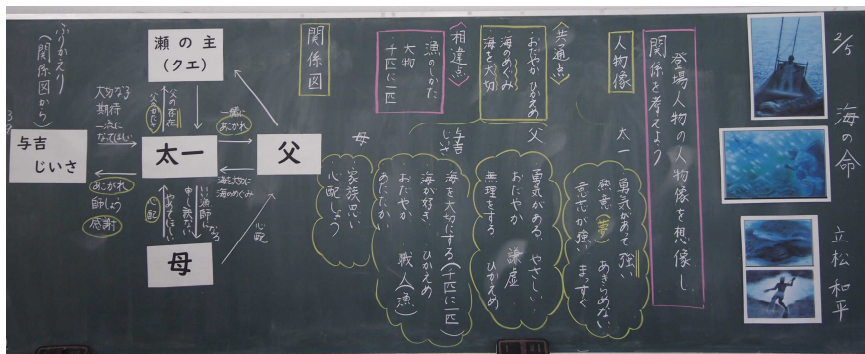
登場人物を関係図で表す

以前「やまなし」の学習時に登場人物の関係を絵に表し学習を進めていった。本文からだけでは、なかなかイメージがつかみにくい児童も絵や図に表すことによって登場人物の関係や情景を読み取ることができた。本授業では、登場人物(太一、父、母、与吉じいさ、瀬の主)の関係図を元にしながら、ペアやグループで人物の関係



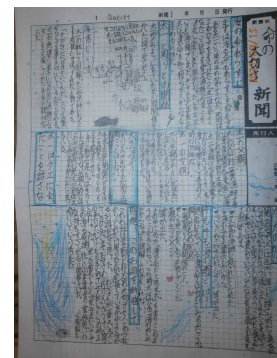
図示して発表

性について伝え合った。教材提示装置を使って全体に伝えるという発表形式にした。伝え合うときには、どうしてその関係が成り立つのか、文章の内容から読み取り理由付けをしながら伝えることで、内容把握を見とることができる。また、相手に伝わるように図示した内容をわかりやすく自分の言葉で相手に伝えていった。



登場人物の批評文を書く

批評文とは、登場人物の生き方から自分にとっての価値を見出し、それについて自分の考えを書いた文章である。登場人物の批評文を書くことで、人物を客観的に見つめ直し、自分の考えを表現することにつながる。父、母、与吉じいさ、太一の順で批評を書き進めていった。はじめは、人物像についての内容しか書けなかった児童も、書き進めていくうちに、その人物の生き方や考え方が書けるようになっていった。また、生き方や考え方に対する自分の考えも書けるようになっていった。太一の批評文では、太一と自分を重ね自分の生き方と比較して書いている児童も多かった。



それぞれの生き方について新聞にまとめる

学習のまとめとして、命や生き方をテーマとして新聞にまとめ

ていった。あらすじを書いたり、登場人物の関係図を書いたり、批評文の一文を書きぬいてまとめる児童もいた。登場人物の関わりやそれぞれの人物の生き方などが新聞を通して、様々な角度からまとめることができる。新聞にまとめる活動は「表現力」の一つの方法でもあると考える。また、社会の歴史新聞や総合学習のまとめなど、他教科と関連させて、取り組めた。

(3) 交流する、伝え合い(6年:「やまなし」光村図書)

並行読書

「イーハトーヴの夢」を重ねて読むことで、宮沢賢治の世界観を感じ取る

この2つを重ねて読むことで、作品の世界と作者の生き方、考え方を捉えながら、自分の考えを深めていく学習が展開できる。川の中での様子を幻灯で映し出し、造語などの独創的表現、擬態語・擬声語など作者自身の内面を映し出した作品でもあり、作者を意識しながら読むことができる。さらに、「イーハトーヴの夢」は、賢治の自然を愛する心や自分のことよりも人のために尽力を尽くした生き方が簡潔に描かれており、作品を通して賢治が表現したかったことがつかめる資料である。

題名「やまなし」について考え、交流する

かわせみとやまなしは対比できる関係であるのに、なぜ「やまなし」という題名をつけたのか考えさせる。また、別の題名であった場合の印象を考えることにより、より深く題名の意味を考えさせる。さらに自分が考えたことや話し合ったことをもとに題名「やまなし」について自分の考えをまとめさせる。

読書会を開き感想を交流する

「やまなし」を学習した後に、宮沢賢治が書いた作品を読み、同じ作品を読んだ児童が集まり、内容や感想を伝え合ったり、「やまなし」と比べて、作品の共通点や相違点を見つけたりしながら話し合いを広げていった。

3 課題及び今後の取組の方向

自分の思いや考えを言葉にすること(表現すること)は、なかなか難しいことである。しかし、本来子どもたちは、話したい、伝えたいことがいっぱいあると思う。その思いを正しい言葉で順序だてて話をしたり、うまく伝えられたりした時の喜びは、何とも言えないものだと思う。しかし、言葉を知らなければ、自分の考えや思いを伝えられるはずがない。「やまなし」「海の命」の二つの実践より、登場人物の相互関係や個々の心情を読み取りながら、常に登場人物の生き方や考え方に対して自分の考えをもたせて学習を進めてきた。また、自分の生き方や考え方と比べたり、これからどのように生きていくのかなど、自分ごととして考えさせたりしながら、自分なりの言葉で表現させていきたい。今後、さらに表現力を高めていくためにも、書くこと・話すことを中心に様々な方法を見つけ、子ども達が自信をもって表現できる方法を身につけさせていきたい。どんなときにも、自分の考えをもち表現できる、また、学習したことが実生活で生かせる生きた言語活動ができる児童を育てていきたい。